

八甲田ホテル (青森市)

# 日常の維持管理で木を長持ちさせる



酸ヶ湯温泉(株)代表取締役社長の佐々木聡氏

酸ヶ湯温泉(株)常務取締役(八甲田ホテル総支配人)の小野寺一氏

酸ヶ湯温泉(株)管理課・係長の渡辺順一氏

雄大な八甲田山の自然の中に、国内最大級の木造建築である「八甲田ホテル」がある。木材にとっては厳しい豪雪地帯でありながら、完成から16年半を経た今も、時間の経過を感じさせない良好な状態を保つ。その秘訣は、定期的な塗装の塗り直しはもとより、日ごろからこまめな塗装メンテナンスを心がけ、木が長持ちするように努めている点にある。

適切な手入れを続けられれば、木造の建物は長持ちする。その事実を証明するのは、古い伝統建築だけではない。現代の木造建物にも、そういう事例はある。国内最大級の純木造建築「八甲田ホテル」は、その好例と言える。

十和田八幡平国立公園の広大な森に、6棟に分けられて建つ木造建物の延べ面積は6200㎡。構造が木造であるばかりか、外壁もすべて木材で仕上げられている。

年間に積算20mもの降雪量があり、建物の下部は、半年間も雪に埋められる。木材にとっては厳しい環境だが、完成後10年目に実施した専門家による検査では、特に問題は見つからな

かった。以降、現在に至るまでの16年半、建物全体にわたるような大規模な補修は施したことがない。

「八甲田ホテルは、200年もたせるという思いを込めてつくっています。単に頑丈な構造というだけでなく、完成後もこまめなメンテナンスを心がけてきました。その甲斐あって、木造には厳しい豪雪地帯でありながら良好な状態を保っています。八甲田ホテルを運営する酸ヶ湯温泉(株)の佐々木聡社長は、そう胸を張る。

厳しい気候にさらされる外壁の塗装メンテナンスに、1991年5月の開業以来、八甲田ホテルで使用しているのが、木材保護塗料の「キシラデコール」だ。

## ■八甲田ホテル

### 250トンの炭素を固定する建築の「森」

八甲田山のブナ林に抱かれた「酸ヶ湯(すかゆ)温泉」は、300年以上の歴史を持つ日本屈指の名湯だ。ただ一軒だけの温泉宿は、80年以上前に建てられた木造の大型建築で、いまや貴重な文化遺産と言えるほどの風格と情緒を漂わせる。「大正期に建てた酸ヶ湯温泉が80年以上もつものだから、現代の技術を使えば200年もつ建物がつくれるのではないか。それを具現化しようとしたのが、この八甲田ホテルです」と、佐々木社長は語る。

八甲田ホテルでは、ログハウスの丸太組み工法と同時に、設計者の早川正夫氏が考案した「かざんじ工法」

を採用している。伝統構法にならって、釘などの金物を使わない工法だ。舶来の工法と、伝統の技法とを組み合わせた独特の構造形式が見られる。

木材の総使用量は約1000㎡にのぼる。大気中の二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)を吸収して、酸素(O<sub>2</sub>)を排出する樹木は、焼却されたり、老木となって生物的に分解したりしない限り、再びCO<sub>2</sub>を排出することがない。炭素を蓄えるその特性は「炭素固定」と呼ばれ、地球温暖化の抑制に重要な役割を果たしている。

木材の使用は、樹木と同様に炭素固定の一端を担う。換算すると、250トンの炭素を貯蔵している八甲田ホテルの建物は、まわりの広大な森とともに炭素固定に寄与する「森の中の森」と言える。

「外壁の木材は、ほぼ5年ごとに足場を架けて全面的に塗り直すほか、傷みがちな部位を中心に、日常的にも少しずつ塗装しています」と、八甲田ホテル総支配人の小野寺一氏は話す。

自然素材である木材には、手入れが欠かせない。放っておけば、表面にカビなどの汚染菌が繁殖したり、紫外線や雨水を受けて退色ややせが起ったりもする。木に含まれるヤニ成分の滲出や膨潤収縮による割れのほか、木材害虫の発生や、鉄・アルカリ・酸の汚染も起きる。

天然素材だからこそ、そうした劣化・汚染から守り、長持ちさせるための手入れが欠かせない。

八甲田ホテルを取り巻く環境には、メンテナンスの大切さを教えてくれる特性がある。年間20mにもなる降雪量だ。冬の間、建物は雪に埋もれる。客室の窓まわりなどは除雪をするが、すべてには手がまわらない。外壁の下部は、半年間も雪の中で過ごす。

「降るときは柔らかな雪でも、積もれば固い氷なので、特に外壁の下部の木が傷つけられます。屋根から下がったツララが、外壁を傷めることもあります」と、小野寺さんは言う。

雪解けの季節は、半年間隠れていた外壁の状態がわかる時期でもある。積雪で傷ついたり、水分によって劣化を起こしそうなったりしている部位が明らかになる。

「雪が解けると、外壁のまわりをチェックして、傷がついたり、カビが生えそうなたりしている個所に、少しずつ塗装していきます」。そう話す管理課係長の渡辺順一さんが、八甲田ホテルの

名称◎八甲田ホテル 所在地◎青森県青森市八甲田山1 建築面積◎4237㎡ 延べ面積◎6228㎡ 構造・階数◎木造、地上2階 施工期間◎1989年9月～1991年4月 客室数◎55室 設計者◎早川正夫建築設計事務所 施工者◎佐藤秀工務店・奥村工務店V

維持管理担当者だ。

ホテルの片隅にある倉庫には、メンテナンス用のキシラデコールが常備されている。ツララなどで破損した際の交換用に、外壁用の板材のストックも持つ。

木部の傷や交換は、局所的に起こる。渡辺さんは、つぶさに外壁を見て歩き、早期発見によって、木部の傷みの進行を抑えている。破損した木材は張り替え、カビの兆候が見られる部位は、塗装の前にサンドペーパーで磨いておく。

補修箇所だけを手当てすれば問題は解決するが、「それでは色ムラになって美観上、好ましくない」(渡辺さん)。そのため、塗装を施す際は、柱と桁梁で囲まれた数メートル四方の一つの面を塗り直しているという。カナダ産レッドシダーやベイマツなど表情の異なる樹種ごとに、「ウォルナット」をはじめとする各色を使い分ける。

塗装作業は、渡辺さん一人で、ハケ塗りを進める。「基本的には一カ所当たり、二回塗りをします。一度に広い面積は塗れないの



本館の正面玄関。太さ40cmにもなるカナダ産レッドシダーなどによるログハウス。外壁の保護のために、完成当初からこまめな塗装でメンテナンスをしている



ブナや青森ドマツからなる八甲田の森に埋もれるように宿泊棟が連なる



設計者の早川正夫氏が考案した「かざんじ工法」で軸組を組み立てる



春が来て、雪が解けると、積雪による木部の傷みが判明する。外壁の下部には、湿度で劣化の兆候が見られる部位もある。そうした箇所をこまめにチェックして塗装し、傷みの進行を抑えている

で、少しずつ何回にも分けて塗っていきます」(渡辺さん)。

作業時間は、宿泊客がチェックアウトしてから、次のチェックインまでの昼間に限っている。また、「その日の風向きも考慮して、塗る箇所を決めています」と、渡辺さんは言う。

刺激臭があるわけではないが、森に囲まれた環境の中では、わずかな塗料の臭いも敏感に嗅ぎ取られる。そこに配慮して、客室内に風が流れない箇所

で塗装作業を進める。

おおまかに見ると、雪に埋もれる外壁の下部は3年に一度は塗り直している計算になるという。豪雪地帯にありながら、構造も仕上げも木材を使った八甲田ホテルは、16年半の間、大規模な補修もなく過ごしてきた。

厳しい環境だからこそ、心がけている日常的なメンテナンスは、こまめな手入れをすれば、木材が長持ちすることを、象徴的に表している。

風向きを読みつつ一度に少しずつ塗装



【お問い合わせ先】

製造販売  
日本エンバイロケミカルズ株式会社  
販売所:FDI Parita Dico GmbH

木とともに生きる。【キシラデコール】

**XYLADECOR**

大阪 〒541-0051 大阪市中央区備後町三丁目6番14号 アーパークエスト備後ビル TEL. 06-6268-3428 FAX. 06-6268-3420  
東京 〒105-0023 東京都港区芝浦一丁目2番1号 シーパズN 9階 TEL. 03-5444-9872 FAX. 03-5444-9860  
[www.jechem.co.jp](http://www.jechem.co.jp)

キシラデコールに関する  
情報満載!

[www.xyladecor.jp](http://www.xyladecor.jp)